

## 第2章

### 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 (中学校)

# I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の概要

## 1 調査実施の趣旨

東京都教育委員会では、平成15年度から、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の教科の目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の充実・改善に結びつけることを目的に、教科別・観点別の学力定着状況調査を4年間実施した。平成18年度から平成20年度にかけては、「問題解決能力等の調査」を実施し、平成19年度から平成22年度にかけては、「基礎的・基本的な事項に関する調査」を実施した。

これまでの調査の結果から、東京都における生徒の学力の定着状況については、おおむね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握することや情報を整理して判断すること」について、課題があることが明らかになった。この課題を踏まえ、平成22年度には、「文章や図表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する」過程において、生徒がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを明らかにするために、「読み解く力に関する調査」を実施した。平成23年度からは、中学校学習指導要領が先行実施されたことを踏まえ、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況と「読み解く力」の定着状況を把握するために、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の各教科について調査を実施している。

## 2 調査問題作成の基本方針

- (1) 調査問題を、よりよい授業展開の在り方を提案する「授業提案型」および生徒の学習のつまずきが、どこでどのように見られたのか分析できる「課題分析型」の2種類とする。
- (2) 学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの評価の観点から調査する。
- (3) 「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3つの観点から調査する。

## 3 調査項目

中学校第2学年 ※各教科とも小学校および中学校第1学年に学習した内容を含む。

教科	調査項目
国語	・話すこと・聞くこと（「聞くこと」については、音声を聞いて答える問題） ・漢字の読み（小学校「学年別漢字配当表」）・漢字の書き（小学校「学年別漢字配当表」） ・言葉に関する知識（文の成分の順序や照応） ・文学的な文章の読み ・説明的な文章の読み ・書くこと 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
社会	[地理的分野]・世界の地域構成 ・世界各地の人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ・世界の様々な地域の調査 ・日本の地域構成 [歴史的分野]・歴史のとらえ方 ・古代までの日本 ・中世の日本 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
数学	・正負の数 ・文字と式 ・一次方程式 ・比例と反比例 ・平面図形 ・空間図形 ・資料の活用 ・式の計算（第2学年） 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
理科	[第1分野]・光と音 ・物質のすがた ・水溶液 ・状態変化 [第2分野]・生物の観察 ・植物の体のつくりと働き ・植物の仲間 ・地層の重なりと過去の様子 ・火山と地震 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力
外国語 (英語)	・聞くこと（音声を聞いて答える問題） ・読むこと ・書くこと 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 ※時制は現在形・進行形・過去形（be動詞含む）まで

## Ⅱ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

【中学校】

### 1 調査結果の概要

教科	《教科の観点ごとの正答率》				《教科の読み解く力ごとの正答率》				
	内容	都全体 青梅市	平均正答率グラフ(%)		評価の観点	都全体 青梅市	平均正答率グラフ(%)		差
			0	50			100	0	
国語	国語への関心・意欲・態度	92.5 %	東京都		必要な情報を正確に取り出す力	85.8 %			-3.2
		91.2 %	青梅市			82.6 %			
	話す・聞く能力	68.1 %			比較・関連付けて読み取る力	64.2 %			-5.4
		63.2 %				58.8 %			
	書く能力	78.0 %			意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	62.4 %			-7.2
		74.6 %				55.2 %			
	言語についての知識・理解・技能	70.1 %			B 読み解く力に関する内容	69.2 %			-5.3
		64.2 %				63.9 %			
	読む能力	70.5 %			教科の合計 (A+B)	72.5 %			-4.9
		64.9 %				67.6 %			
A 教科の内容	73.2 %								
	68.3 %								
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	94.4 %			必要な情報を正確に取り出す力	62.9 %			-8.7
		93.4 %				54.2 %			
	社会的な思考・判断・表現	59.9 %			比較・関連付けて読み取る力	42.9 %			-6.2
		52.6 %				36.7 %			
	資料活用 of 技能	57.6 %			意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	46.8 %			-7.1
		51.4 %				39.7 %			
	社会的事象についての知識・理解	62.0 %			B 読み解く力に関する内容	50.9 %			-7.4
		55.7 %				43.5 %			
A 教科の内容	62.9 %			教科の合計 (A+B)	60.3 %			-6.3	
	56.9 %				54.0 %				
数学	数学への関心・意欲・態度	77.6 %			必要な情報を正確に取り出す力	49.6 %			-12.0
		74.1 %				37.6 %			
	数学的な見方や考え方	41.6 %			比較・関連付けて読み取る力	49.3 %			-6.8
		30.6 %				42.5 %			
	数学的な技能	53.9 %			意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	35.4 %			-10.7
		44.2 %				24.7 %			
	数量や図形などについての知識・理解	58.8 %			B 読み解く力に関する内容	45.4 %			-10.1
		48.4 %				35.3 %			
A 教科の内容	55.6 %			教科の合計 (A+B)	53.0 %			-9.6	
	46.1 %				43.4 %				
理科	自然事象への関心・意欲・態度	86.7 %			必要な情報を正確に取り出す力	78.7 %			-7.5
		84.4 %				71.2 %			
	科学的な思考・表現	45.7 %			比較・関連付けて読み取る力	49.8 %			-9.9
		38.4 %				39.9 %			
	観察・実験の技能	61.4 %			意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	19.5 %			-2.3
		54.1 %				17.2 %			
	自然事象についての知識・理解	46.8 %			B 読み解く力に関する内容	49.4 %			-6.6
		40.3 %				42.8 %			
A 教科の内容	53.4 %			教科の合計 (A+B)	52.5 %			-6.5	
	47.0 %				46.0 %				
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	82.6 %			必要な情報を正確に取り出す力	45.2 %			-5.5
		77.4 %				39.7 %			
	外国語表現の能力	31.7 %			比較・関連付けて読み取る力	52.9 %			-9.6
		18.3 %				43.3 %			
	外国語理解の能力	69.5 %			意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	37.4 %			-6.1
		61.5 %				31.3 %			
	言語や文化についての知識・理解	59.3 %			B 読み解く力に関する内容	45.2 %			-7.1
		48.3 %				38.1 %			
A 教科の内容	60.2 %			教科の合計 (A+B)	56.7 %			-9.1	
	50.5 %				47.6 %				

## 2 各教科の問題ごとの正答率一覧

### (1) 国語（中学校第2学年対象）

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点					正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④	⑤				
1(1)	1	1年 A話・聞	話の内容を正確に捉えることができる。		○				92.4 % 91.7 %		-0.7	○
1(2)	2	1年 A話・聞	話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。		○				71.7 % 65.8 %		-5.9	●
1(3)	3	1年 A話・聞	二つの意見を聞いて内容を理解するとともに、観点を明確にして比較することができる。		○				40.2 % 32.2 %		-8.0	
1(4)	4	1年 A話・聞	適切な関心・意欲・態度をもって、話すこと、聞くことについて学習に取り組もうとしている。	○					96.5 % 97.3 %		0.8	●
2(1)	5	1年 伝統(1) ウ	学年別配当漢字表に示されている漢字を、正しく読むことができる。					○	97.1 % 97.0 %		-0.1	○
2(2)	6							○	74.8 % 68.5 %		-6.3	○
2(3)	7							○	91.0 % 86.0 %		-5.0	○
3(1)	8	1年 伝統(1)ウ	学年別配当漢字表に示されている漢字を、正しく書くことができる。					○	45.8 % 34.7 %		-11.1	○
3(2)	9							○	60.1 % 49.4 %		-10.7	○
3(3)	10							○	66.4 % 60.2 %		-6.2	○
4(1)	11	1年 伝統(1)イ	語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。					○	58.0 % 53.3 %		-4.7	○
4(2)	12		熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができる。					○	71.1 % 67.1 %		-4.0	○
4(3)	13						○	66.8 % 61.8 %		-5.0	○	
5(1)	14	1年 C読ウ	ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。					○	82.2 % 78.0 %		-4.2	●
5(2)	15	1年 C読エ	表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。					○	50.9 % 43.3 %		-7.6	
5(3)	16	1年 C読ウ	ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。					○	71.9 % 68.3 %		-3.6	●
5(4)	17	1年 C読ウ	ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。					○	77.2 % 70.0 %		-7.2	●
6(1)	18	1年 C読イ	課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力					85.8 % 82.6 %		-3.2	○
6(2)	19	1年 C読イ	課題を解決するために、文章や図から取り出した情報を比較・関連付けて読み取ることができる。	読み取る力					61.3 % 54.0 %		-7.3	●
6(3)	20	1年 C読イ		読み取る力					67.1 % 63.6 %		-3.5	●
6(4)	21	1年 C読オ	読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決することができる。	解決する力					62.4 % 55.2 %		-7.2	
7(1)①	22	1年 B書ア	課題に応じて、適切に材料を集めることができる。			○			90.7 % 88.1 %		-2.6	○
7(1)②	23	1年 B書ア	集めた材料を基に、自分の考えをまとめることができる。			○			79.0 % 75.9 %		-3.1	●
7(2)	24	1年 B書ウ	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。			○			64.3 % 59.9 %		-4.4	
7(3)	25	1年 B書	適切な関心・意欲・態度をもって、書くことについての学習に取り組もうとしている。	○					88.5 % 85.2 %		-3.3	●

評価の観点 ①国語への関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力

(分類) ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 到達目標値は○と●の合計数である

(2) 社会 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
1(1)	1	地理 (1)アイ	世界の気候の特色を正しく理解している。				○	78.3 % 73.0 %		-5.3	○
1(2)	2		世界の気候の特色を気温と降水量を示したグラフを用いて捉えることができる。		○			82.0 % 77.0 %		-5.0	●
1(3)	3		世界の気候の分布図を用いて、気候帯の分布を捉えることができる。			○		67.6 % 60.0 %		-7.6	
1(4)	4		世界の主な宗教の分布について正しく理解している。				○	70.3 % 60.4 %		-9.9	●
1(5)	5		表を用いて、世界各地の人々の生活について捉えることができる。		○			62.4 % 54.3 %		-8.1	●
2(1)	6	地理 (1)ウ	オセアニア州の位置を海洋との関係で理解している。				○	84.0 % 75.7 %		-8.3	○
2(2)	7		緯度と経度を用いて、オセアニア州のオーストラリア大陸の地球上の位置を捉えることができる。			○		59.8 % 56.3 %		-3.5	●
2(3)	8		オセアニア州の地域的特色を資料から捉えることができる。			○		53.6 % 46.3 %		-7.3	●
2(4)	9		オーストラリアの貿易の特色について、資料と関連付けて説明することができる。		○			50.8 % 40.4 %		-10.4	
2(5)	10		オセアニア州の学習を踏まえ、意欲的に探究しようとしている。	○				94.1 % 93.0 %		-1.1	●
3(1)	11	地理 (2)ア	気温と降水量を示したグラフを正しく読み取ることができる。			○		74.8 % 66.8 %		-8.0	○
3(2)	12		日本の気候の特色の理由を正しく捉えることができる。			○		46.3 % 38.8 %		-7.5	○
3(3)	13		都道府県の地域区分を複数の資料を基に正しく捉えることができる。			○		59.3 % 50.0 %		-9.3	●
3(4)	14		日本の都道府県庁所在地の名称を正しく理解している。				○	70.9 % 67.5 %		-3.4	●
4(1)	15	歴史(2)	古代までの日本の外交について正しく理解している。				○	26.5 % 19.9 %		-6.6	○
4(2)	16		古代までの日本の政治の特色を説明することができる。		○			47.8 % 45.0 %		-2.8	●
4(3)	17		古代までの日本の文化の特色を、年表と資料とを結び付けて捉えることができる。			○		56.3 % 53.1 %		-3.2	●
4(4)	18		古代までの歴史の学習を踏まえ、意欲的に探究しようとしている。	○				94.7 % 93.7 %		-1.0	●
5(1)	19	歴史 (3)	中世の日本における政治の変化について正しく理解している。				○	46.3 % 39.2 %		-7.1	○
5(2)	20		中世の日本の歴史的事象を正しく理解している。				○	57.8 % 54.1 %		-3.7	○
5(3)	21		中世の日本について、東アジア世界との関わりを資料と関連付けて説明することができる。		○			56.6 % 46.6 %		-10.0	
5(4)	22		中世の日本について、東アジア世界との関わりを資料と関連付けて捉えることができる。			○		48.9 % 39.8 %		-9.1	●
6(1)	23	地理(2)イ	日本の製鉄所の分布図から、工業団地の様子を正確に取り出すことができる。	取り出す力				59.2 % 51.9 %		-7.3	○
6(2)	24		東北地方の主な半導体工場の分布について、資料を関連付けてまとめることができる。	読み取る力				21.5 % 18.8 %		-2.7	●
6(3)	25		日本の工場立地と輸送機関との関係を推論することができる。	解決する力				47.7 % 41.4 %		-6.3	
7(1)	26	歴史 (5)	1900年代前半の東京の主な百貨店の開店時期を正確に取り出すことができる。	取り出す力				66.6 % 56.6 %		-10.0	○
7(2)	27		1900年代前半の東京の主な百貨店の開店した地域の変化をまとめることができる。	読み取る力				64.4 % 54.7 %		-9.7	●
7(3)	28		人口の変化から主な百貨店の開店した地域の変化の理由を推論することができる。	解決する力				45.9 % 37.9 %		-8.0	

評価の観点 ①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③資料活用の技能  
④社会的事象についての知識・理解  
(分類) ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 目標達成値は ○と●の合計数

(3) 数学 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%) 0 50 100	差	分類
				①	②	③	④				
1(1)	1	小5B(4)ア	小数の乗法ができる。			○		66.0 % 58.3 %		-7.7	○
1(2)	2	小5B(4)ア	小数の大小について理解している。				○	86.0 % 80.4 %		-5.6	○
1(3)	3	1年A(1)ウ	正負の数の除法ができる。			○		40.6 % 20.7 %		-19.9	○
1(4)	4	1年A(1)ウ	累乗を含む正負の数の乗法ができる。			○		66.1 % 61.2 %		-4.9	○
2(1)	5	1年A(2)エ	文字を使った式で表すことができる。			○		78.4 % 70.7 %		-7.7	●
2(2)	6	1年A(2)ウ	文字式の計算をすることができる。			○		71.1 % 60.9 %		-10.2	○
2(3)	7	1年A(3)ウ	1次方程式を解くことができる。			○		53.7 % 42.7 %		-11.0	●
2(4)	8	1年A(3)ウ	比例式を解くことができる。			○		46.5 % 33.4 %		-13.1	●
3(1)	9	1年A(2)ア	問題文から変化の様子を読み取り、問題を解決することができる。			○		72.1 % 63.1 %		-9	○
3(2)	10	1年A(2)ウ	図や文章を、式に表現することができる。		○			55.5 % 40.8 %		-14.7	●
3(3)	11	1年A(2)エ	図や文章を、式に表現することができる。		○			20.4 % 11.0 %		-9.4	
4(1)①	12	1年A(3)ウ	文章を読み取り、情報を取り出すことができる。	取り出す力				73.1 % 64.0 %		-9.1	○
4(1)②	13		割合を文字を使った式で表すことができる。	取り出す力				53.0 % 36.8 %		-16.2	○
4(2)	14		割合の考え方をを用いて問題を解決することができる。	読み取る力				56.8 % 51.0 %		-5.8	●
4(3)	15		割合の考え方をを用いて方程式を立式することができる。	解決する力				21.3 % 9.8 %		-11.5	
5(1)	16	1年C(1)イ	yがxに反比例するものがわかる。			○		47.9 % 36.3 %		-11.6	○
5(2)	17	1年C(1)エ	比例の式を求めることができる。			○		45.4 % 38.7 %		-6.7	●
5(3)	18		比例のグラフの式が分かる。			○		59.6 % 56.1 %		-3.5	●
6(1)	19	1年B(1)ア	垂線の作図や同じ長さを写しとる作図を行うことができる。			○		31.1 % 18.8 %		-12.3	
6(2)	20		作図の方法を表した文章について考えることができる。		○			48.9 % 40.2 %		-8.7	
6(3)	21		図形の作図に意欲的に取り組もうとすることができる。	○				89.3 % 85.7 %		-3.6	●
7(1)	22	1年B(2)イ	回転体について理解している。			○		45.7 % 27.9 %		-17.8	●
7(2)	23	1年B(2)ウ	円柱の表面積を求めることができる。			○		22.3 % 17.8 %		-4.5	●
7(3)	24		底面積と高さが同じ円柱と円錐の体積の関係について理解している。			○		54.9 % 41.4 %		-13.5	●
8(1)	25	1年D(1)ア	文章を読み取り、情報を取り出すことができる。	取り出す力				22.6 % 12.1 %		-10.5	○
8(2)	26		中央値を求めることができる。	読み取る力				41.7 % 34.0 %		-7.7	●
8(3)	27	1年D(1)イ	正確に作業することができたと言える理由を、データを基に説明することができる。	解決する力				49.4 % 39.7 %		-9.7	
8(4)	28	1年D(1)ア	資料の活用に意欲的に取り組もうとすることができる。	○				65.9 % 62.4 %		-3.5	●

評価の観点 ①数学への関心・意欲・態度 ②数学的な見方や考え方 ③数学的な技能  
④数量・図形などについての知識・理解

分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習レベルの問題 ※到達目標値は○と●の合計数

(4) 理科 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体 (青梅市))	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
1(1)	1	2分野 (1)ウ(イ)	イヌワラビのからだのつくりを理解している。				○	45.5 % 33.7 %		-11.8	○
1(2)	2	2分野 (1)ア(ア)	顕微鏡の使い方を理解している。			○		70.2 % 61.4 %		-8.8	●
1(3)	3	2分野 (1)ウ(イ)	イヌワラビの維管束の場所を理解している。				○	79.1 % 71.1 %		-8.0	●
2(1)	4	2分野 (1)ウ(ア)	植物を分類する条件を考えることができる。		○			59.8 % 47.6 %		-12.2	●
2(2)	5		植物の特徴から植物を分類することができる。		○			72.1 % 65.5 %		-6.6	
2(3)	6		植物の分類について関心がある。	○				80.4 % 76.7 %		-3.7	●
3(1)	7	1分野 (2)ウ(ア)	状態変化における体積と質量の変化について理解している。				○	48.4 % 39.4 %		-9.0	●
3(2)	8		密度について理解している。				○	44.7 % 32.9 %		-11.8	●
3(3)	9		個体と液体の密度を比較して考えている。		○			37.7 % 33.5 %		-4.2	
4(1)	10	1分野 (2)イ(イ)	溶解度曲線を読み取り、溶解度の大きさについて考えることができる。			○		59.9 % 46.1 %		-13.8	○
4(2)	11		溶解度曲線から、得られる再結晶した物質の質量を求めることができる。		○			48.5 % 36.2 %		-12.3	●
4(3)	12	1分野 (2)イ(ア)	資料パーセント濃度を求めることができる。				○	28.1 % 21.0 %		-7.1	
5(1)	13	1分野 (1)イ(ア)	物体に働く力を表すことができる。			○		36.2 % 35.3 %		-0.9	●
5(2)	14	1分野 (1)イ(イ)	物体に働く圧力を理解している。		○			10.4 % 9.5 %		-0.9	
6(1)	15	1分野 (1)ア(イ)	結果の表から実験結果を読み取ることができる。			○		79.2 % 73.5 %		-5.7	●
6(2)	16		実験結果から凸レンズの焦点距離を求めることができる。				○	30.2 % 27.6 %		-2.6	●
7(1)	17	2分野 (2)イ(ア)	示準化石の特徴を理解している。				○	37.2 % 36.3 %		-0.9	○
7(2)	18		石灰石の性質を理解している。				○	69.0 % 68.1 %		-0.9	●
7(3)	19	2分野 (2)ア(ア)	噴出された火山灰から火山の特徴を考えることができる。				○	39.5 % 32.7 %		-6.8	○
7(4)	20	2分野 (2)イ(ア)	岩石の特徴について関心をもっている。	○				93.0 % 92.1 %		-0.9	●
8(1)	21	1分野 (1)イ(ア)	実験結果を表したグラフを正確に取り出すことができる。				取り出す力	74.7 % 65.5 %		-9.2	○
8(2)	22		力の大きさとばねののびについて考えることができる。				読み取る力	54.3 % 42.4 %		-11.9	●
8(3)	23		ばねに働く力を理解し、ばねののびから実験の結果を考えることができる。				解決する力	4.4 % 4.1 %		-0.3	
9(1)	24	2分野 (2)ア(イ)	資料から地震の情報を正確に取り出すことができる。				取り出す力	82.7 % 76.8 %		-5.9	○
9(2)	25		地震波の速さを求めることができる。				読み取る力	45.4 % 37.4 %		-8.0	●
9(3)	26		地震の情報、地震波の速さを適切に利用して震源からの距離を考えることができる。				解決する力	34.6 % 30.4 %		-4.2	

評価の観点 ①自然事象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現 ③観察・実験の技能

④自然事象についての知識・理解

分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 ※到達目標値は○と●の合計数

(5) 英語 (中学校第2学年対象)

問題番号	通し番号	要領の学習指導内容	出題のねらい	評価の観点				正答率 (都全体) (青梅市)	正答率グラフ(%)	差	分類
				①	②	③	④				
1	1	聞くこと	相手の話を聞き、積極的に応答しようとする。	○				97.9 %		0.0	●
2(1)	2	聞くこと ウ	疑問詞のある疑問文に適切に応答できる。			○		68.5 %		-16.9	○
2(2)	3	聞くこと ウ	疑問詞のある疑問文に適切に応答できる。			○		84.5 %		-5.5	○
2(3)	4	聞くこと ウ	相手からの依頼に適切に応答できる。			○		40.5 %		-7.3	●
3(1)	5	聞くこと オ	まとまりのある英文を聞いて、概要を理解することができる。			○		78.2 %		-7.1	●
3(2)	6	聞くこと オ	まとまりのある英文を聞いて、詳細を理解することができる。			○		90.1 %		-7.3	○
3(3)	7	聞くこと オ	まとまりのある英文を聞いて、要点を理解することができる。			○		63.7 %		-2.9	●
4	8	書くこと (イ)	伝えたい内容を正確な英文で書くことができる。		○			36.4 %		-12.0	
5(1)	9	読むこと (ウ)	所属を表す前置詞の意味を理解している。				○	57.9 %		-4.9	○
5(2)	10	読むこと (ウ)	時に関する前置詞の意味を理解している。				○	42.6 %		-14.9	○
6(1)	11	書くこと (オ)	質問に対して正しい英文を用いて2文で応答できる。		○			32.6 %		-13.4	
6(2)	12	書くこと (オ)	質問に対して正しい英文を用いて2文で応答できる。		○			19.2 %		-12.4	
7(1)	13	読むこと (ウ)	まとまりのある英文を読んで、詳細を理解することができる。			○		25.5 %		-12.4	
7(2)	14	読むこと (ウ)	まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解することができる。			○		56.0 %		-8.6	●
8(1)	15	読むこと (イ)	「what + 名詞」で始まる疑問文の語順を理解している。				○	47.4 %		-8.1	●
8(2)	16		代名詞及び形容詞の入る位置を理解している。				○	74.4 %		-8.1	●
9(1)	17		「Do/Does」の用法を理解している。				○	66.3 %		-10.8	●
9(2)	18		現在進行形の用法を理解している。				○	41.8 %		-10.8	●
10	19	書くこと (オ)	場面にふさわしい表現を用いて書くことができる。		○			68.6 %		-7.0	●
11	20	書くこと	相手に自分のことを積極的に伝えようとしている。	○				61.6 %		-17.2	●
12(1)	21	読むこと	英文から、情報を正確に取り出すことができる。	取り出す力				79.0 %		-10.8	●
12(2)	22		複数の情報を比較・関連付けることができる。	読み取る力				68.2 %		-10.8	●
12(3)	23		根拠を基に推論して解決することができる。	解決する力				32.5 %		-16.0	
13(1)	24	読むこと	英文から、必要な情報を取り出すことができる。	取り出す力				16.5 %		-10.5	●
13(2)	25		複数の情報を比較・関連付けることができる。	読み取る力				67.3 %		-10.5	●
13(3)	26		根拠を基に推論して解決することができる。	解決する力				56.8 %		-10.5	●

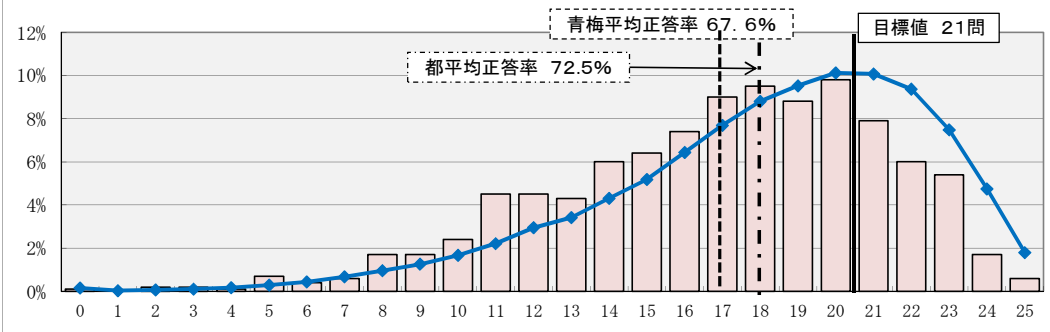
評価の観点 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語表現の能力 ③外国語理解の能力  
 ④言語や文化についての知識・理解  
 分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 到達目標値は○と●の合計数



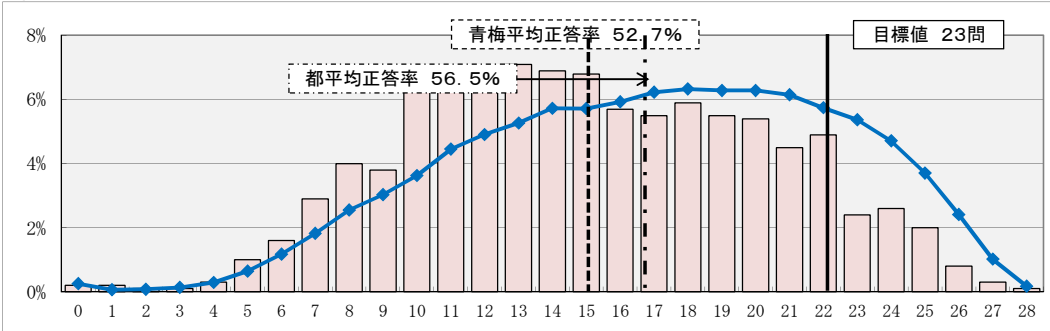
青梅市の合計正答数の人数分布 (中学校 第2学年)

\*棒グラフが青梅市、折れ線グラフが東京都を示す。(縦軸：生徒の割合(%)、横軸：正答数(問))  
 ※目標値とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答問数である。

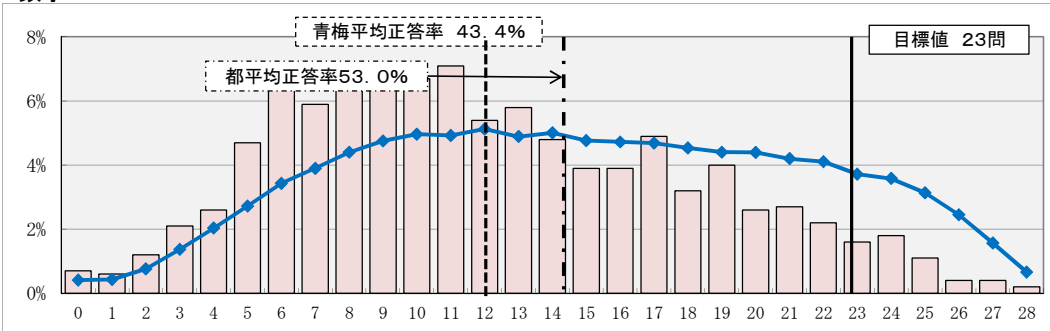
国語



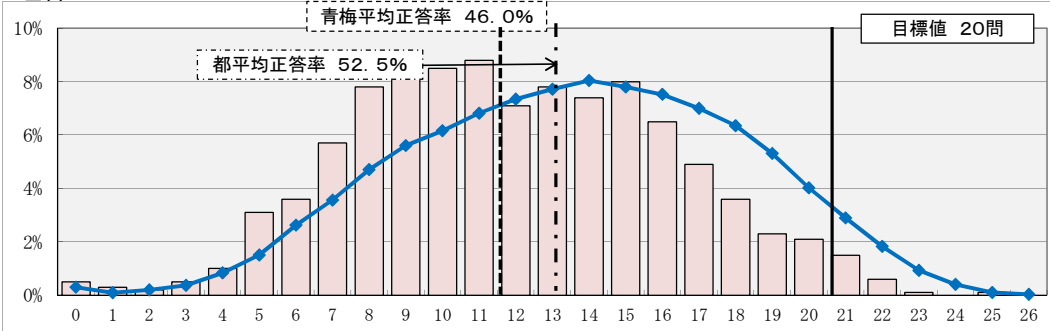
社会



数学



理科



英語

